Rotary International District 2700　Fukuoka North Rotary Club
国際ロータリー第2700地区　福岡北ロータリークラブ

SPECIAL REPORT

週報別冊特別版

創設会員手記

「福岡北RCでの33年間、そして今クラブに思うこと」

「むんてら」

福岡北ロータリークラブ　中西　勇次

FUKUOKA NORTH ROTARY CLUB

昭和三十八年三月

初めての上京一人暮らし、当時の東京はオリンピック前年という事で至る所高速道路や地下鉄の突貫工事中で穴だらけ、よくもまあ皆我慢しているものだという程雑然とした街、日本人の生真面目さ従順さがよくわかる状態だった。そんな東京の日比谷で初めて見た映画が「ウエスト・サイド物語」ジョージ・チャキリスの格好良さに圧倒されてしまった。ブロードウェイ・ミュージカルの映画化という事で音楽の素晴らしさダンスの見事さ、田舎出の学生にはカルチャーショックがすごかった。下駄をはいて通学していた高校生が急にジーンズをはいて飛び跳ねてみたものだ。

その年の四月、東京医科歯科大学入学式

学長の訓示「君達国立大学の医学生には、一人当たり年間二百四十万の予算が交付されている。その事をよく自覚し、一所懸命勉強して国民の医療の為に尽くして下さい」ビックリした。月謝が千円、年間一万二千円の時代である。「それから、**偉大なる低能児**になりなさい。又**むんてら**という言葉を心に刻んで医療に携わって下さい」当時、何の意味かよく解らないまま「頑張らなければ」と思ったものだ。

偉大なる低能児（Tの字）

ドイツ語の**T（テー）の字**は、横棒と縦棒で成り立っている。自分の一生の中でこの縦棒は、自分の専門分野、職業を表すものでそれを深く深く長く伸ばす。又横棒は、自分のまわりの人々、社会との関わりを意味する物でこれを広く広く拡げる。すなわち人生の目的は、**偉大なる低能児**になって偉大なる**Tの字**を作ること。そういう目的を持った人間になりなさい、という訓示だったと思う。

さらば東京

学園紛争はなやかなりし、騒然とした東京を後にして、元より東京に未練もなく福岡で実家の歯科医院を継承した。それ以後、バブルに突入するまでがむしゃらに働いて、JC活動等活発に行い、教えを守って世の人の為に**偉大なる低能児**を目指していた。

丁度その頃、昭和五十八年

初めて上京して二十年後、平野桂樹特別代表が北ロータリークラブを発足されるに当たり、五十名の創立会員の一人に推薦を受けた。もとよりロータリーの何たるかも全く解らず、殆どの会員が奉仕の気持ちも熟成せぬまま集められたという次第であり当然長続きしない人が多かった。

Yuji Nakanishi　Profile	
生年月日	1944年9月6日
福岡北ロータリークラブ入会年月日	1983年6月3日
座右の銘（又は好きな言葉）	「むんてら」「分相応」
尊敬する人（又は人生の恩人）	イチロー
趣味	ゴルフ スポーツ観戦　※チャンネル順 （①野球②サッカー③大相撲④ラグビー⑤ボクシング）
愛読書	坂の上の雲
思い出の映画	ウエスト・サイド物語
思い出の音楽	グレン・ミラー ザ・ベンチャーズ
思い出の場所（出来ればその理由）	志摩観光ホテル・雲仙観光ホテル （サービス・心地良さ）
行きつけの店	いろいろ
好きな花	バラ
日課としている事	時々…ゴルフ練習 時々…散歩

手づくりクラブ

不必要な経費をかけず、質素な手づくりのクラブをという事で発足したが、事務のほとんどを平野病院の従業員に負担をかけて、真の意味の手づくりではなかったように思う。当時は会員数をクラブ同士で争い、単なる員数あわせの様相で、ほんとうに奉仕の心に燃えて集まっているという感じではなかった。

やる時はやる

十周年をすぎて、クラブとして段々成長してきて、本来の奉仕を志すロータリアンの集まりとなってきた。その折、地区大会のホストクラブを引き受ける事になった。当時のガバナーは、他クラブ出身には、人数も少ない経験も浅い北クラブで大丈夫かなという危惧があったと思う。それがアクロス完成後初めての大会で大成功に終わり、あるメンバーの言葉「うちのクラブはすごい。それぞれの持ち場でベストの結果を出す本当のプロの集団だ」私がガバナーに言った言葉「どうですか、うちのクラブはやる時はやるんですよ」ガバナー大感激この頃を機会に二十周年、三十周年と進むにつれて組織として成熟していった。真の意味での奉仕に燃えた若いメンバーが集まり出して、自然に異物は排除される自浄作用も備わった。素晴らしいクラブが出来てきた。

バブル前後

がんばれがんばれ、もっとがんばれ。行け行けどんどん。人より少しでも前に、一番を目指して、医療の分野でも功名争い、少しでも実績を増やして患者不在の医療、そういう風潮の中でうつ病が増えたり、医療の不信が募り始めた。気持ちを伴わない医者と患者の関係。自分が一番とかゴッドなんとか、とか自分の治療は完璧とか言う分・不相応な医者の多い事。尊敬するあのイチローは、この分を世界の頂点で高めようとしている。その為には、周到な準備、リスクマネジメント、変化を恐れない精神力。これぞまさにロータリーの職業奉仕だと思うし、偉大なるTの字の縦棒を深くする事だと思う。

むんてら

医者と患者の気持ちが通わなくなった頃から、行け行けどんどんがんばるよりも、ゆっくり歩んだ方が心地良いのではないか「がんばらないけどあきらめない」そういう治療姿勢を示す医者も出て来たと同時にインフォームド・コンセントで患者さんに丁寧に説明し、治療の同意を得る。又セカンドオピニオンを利用して安心感を増やす事もふえてきた。

さて「**むんてら**」だが昔から医学界では「ムントテラピー」というドイツ語が使われてきた。直訳すると「口の治療」すなわち**言葉で癒す**という意味。患者さんやその家族に丁寧にわかりやすく具体的に説明する事。これから最近は、インフォームド・コンセントになって患者に同意を求めるようになり、段々、医者と患者の不信が取り除かれるようになった。昔も今も「**むんてら**」は、医者にとって一番心に刻まなければいけない事である。

社会奉仕とクラブ奉仕

人間誰しも一生働いてある程度満足してくると後半生は、なんとか人の為、奉仕をと思うようになる。その手段としてのロータリークラブ。又心豊かに健康で楽しくハッピーな老後は、一緒に遊んでくれるパートナー、友人、相談相手に沢山恵まれる事、まさに偉大なる**Tの字**の横棒を拡げる事がロータリーライフの真骨頂、これがロータリーの社会奉仕、クラブ奉仕の精神だと思う。

最後に

私の歯科医師としての原点は、まさにあの医歯大入学式での学長の言葉「**偉大なる低能児**」と「**むんてら**」にあると思います。これからも身体の続く限り気力が衰えない限り、地域の人達のありがとうの笑顔の為に頑張りたいと思います。